

平成 29 年度

事 業 報 告 書

[平成 29 年 7 月 1 日から平成 30 年 6 月 30 日まで]

一般財団法人 神 道 文 化 会

平成 29 年度事業報告書

I、実施事業(継続事業 1 定款第4条 1 号から第 5 号)

1、神道の思想・文化に関する研究及び情報提供

(1) 学術研究書「神道文化叢書」の企画・編集

神道の思想や文化に関する高度な学術研究について公表の機会を提供するため、「神道文化叢書」を刊行している。本年度は第 43 輯『神をまつる神社建築』山田岳晴氏著を平成 30 年 6 月 30 日に刊行。

(2) 機関誌「神道文化」の発行

神道文化の普及、神道精神の昂揚を目的として、機関誌を発行している。随筆、対談(座談会)、学術小論文等を掲載。本年度は第 30 号を平成 30 年 6 月 30 日に発行。

《対談の開催(本誌に掲載)》

- ・日 時 平成 30 年 3 月 19 日(月)
- ・場 所 國學院大學キャンパス
- ・出席者 阪本是丸氏(國學院大學教授・神道文化会理事/語り手)
藤本頼生氏(國學院大學准教授/聴き手)

以上 2 名

- ・テーマ 『これまでの神道文化会、これからの神道文化会』

2、講演

毎年 1 回「神道文化」をテーマにした公開講演会や大学教授らによるミニシンポジウムを開催している。

対象：一般公衆(ホームページ、ポスター掲示、チラシ配布、ダイレクトメール等により参加者を募集)

《講演会の開催》

- ・日 時 平成 30 年 6 月 16 日(土) 午後 1 時より午後 4 時 30 分まで
- ・場 所 國學院大學渋谷キャンパス (AMC 棟 常磐松ホール)
- ・テーマ 「鏡と神道文化」
- ・講 演 I 「古代祭祀と鏡」
笹生 衛氏(國學院大學教授)
- ・講 演 II 「神道思想における鏡」
松本 丘氏(皇學館大学教授)
- ・トークセッション 藤澤 紫氏(國學院大學教授)、笹生 衛氏、松本 丘氏
藤本頼生氏(國學院大學准教授/司会・進行)

・参加者人数 約 95 名

以上

3、神道文化功労者表彰

毎年、当会の「神道文化表彰規程」に基づき、神道文化の昂揚、普及、研究に功績のあった個人もしくは団体を選定し、表彰を行っている。

表彰対象は以下の通りである。

- 1 多年神道文化高揚に精励し、その功績拔群なる個人もしくは団体
- 2 神道文化に関する学術研究において、その功績の顕著なるもの
- 3 神道ならびに神社に関する広報・教化活動において、その功績顕著なるもの
- 4 神道関係団体において、その活動が優秀なるもの
- 5 神道文化高揚のため功労あるもの

支給総額：70 万円。表彰選考委員会（平成 30 年 4 月 18 日開催）において決定。

（平成 30 年 5 月 25 日表彰式にて表彰状および記念品料を支給）

《本年度被表彰者名》

(1) 野村文男殿 (愛知県)

氏は、愛知県安城市鎮座の神明神社宮司として神明奉仕の傍ら、古希を迎えた記念として、折々に作成した 37 年間に亘る祝詞 380 篇の中から 155 篇を自選し、『野村文男祝詞集』を刊行。内容は、神職以外にも読めるよう配慮され「漢字仮名交じり書き」になっており、阪本是丸氏が寄せた序文には、「奏上された多種多様な『現代的祝詞』の一つひとつに、地域社会における神職と住民・各共同体とのつながりがありありと見て取れる『祝詞集』になっていると書かれ、一方地域社会における神の姿が刻み込まれ「異色の祝詞集」でもあるとも寄せられている。また、氏のライフワークである神葬祭の研究を纏めるなど、地域に根差した信仰的な実践・研究を積み重ねてきた功績は高く評価される。

記念品料 10 万円支給

(2) 松田涼恵殿 (東京都)

氏は「涼恵」という歌手名で、作詞作曲したオリジナル曲を歌い続け、昨年歌手生活 15 周年を迎え、大阪と東京で記念コンサートを開催。氏は、歌手活動を始めて以来、一貫して神道の世界をオリジナルの歌にし、歌い続け、澄んだ歌声で言霊を通し神道の心を直接人々に届けている。15 年間でアルバムを三集出し、全 33 曲を発表。多くのひとの印象に残る『豊葦原の瑞穂の国』、『このはなさくや』、『常若』、『弥栄』などの名曲がある。歌を通し、多くの人々に神道や神社への理解を促し教化活動としても評価される。

記念品料 10 万円支給

(3) 埼玉県神道青年会殿 (埼玉県)

同青年会が刊行した『埼玉県の忠魂碑』は、日露戦勝百十年・大東亜戦争終結七十年の記念事業として平成27年4月から29年3月までの2年間にわたった調査活動と分析作業を行い発刊されたものである。調査活動は同会がこれまでに長年取り組んできた英霊顕彰事業を引き継ぎその資料をもとに、地図上で慰霊碑の所在を確認、調査カード等に記録しながら、結果、埼玉県下における石碑の数1102基を写真、所在地等を記載し、巻末には調査報告、市町村別建立数等の資料を掲載するなど、優れたものとなっている。その活動を評価。 記念品料10万円支給

(4) 志和八幡宮氏子青年会殿 (岩手県)

同青年会は、昭和50年より、志和八幡宮祭礼の山車を氏子から引き継ぎ、製作・巡りを行っている。また同会は、同じく昭和50年に、330年前から戦前まで奉納されていた裸参りの奉納を35年ぶりに復活を果たし、今日いたる。裸参りは、以前は南部杜氏の醸造祈願であったが、現在では「南部杜氏発祥の地」といわれる伝統を後世に伝えることを目的としている。そのほか、同会の活動範囲は旧志和村の伝統文化の継承に尽力するなど地域文化に貢献している。

記念品料10万円支給

(5) 宗像国際環境会議実行委員会殿 (福岡県)

同委員会は、平成26年より福岡県宗像市で開催している「宗像国際環境100人会議」の提案を受け、立ち上げられた委員会である。宗像大社を同市地域の歴史的文化的文化基盤としつつも神道色を前面に打ち出すことなく、ひとびとの暮らしとその社会形成の構造を決める価値観である「自然環境」を根底におく神道の社会観を無理なく浸透させ社会を再生させる活動となっている。“海の鎮守の森”構想を標榜し、沿岸部に広がる『磯焼け』問題をはじめ、漂着ゴミなどの海の環境問題を中心に活動している。

記念品料10万円支給

(6) 吉川竜実殿 (三重県)

氏は、平成元年に神宮へ奉職して以来、神明奉仕の傍ら多年にわたり神宮故実を中心に研究を重ね、皇學館大學に於いても研究員として成果を上げ、神道や神宮の学術研究を進める上で功績大である。

また、昨年には長年の研究業績である論文『近世神宮考証学』が評価され、皇學館大學に於いて「博士(文学)学位」が授与された。単著『遷宮物語—江戸時代の遷宮啓蒙誌を読む—』、共著『わかりやすい神道の歴史』、『伊勢物語—悠久の歴史と祭り—』などがありその他、共編も多数あり功績を評価。 記念品料10万円支給

(7)吉浦八幡神社「雅の会」殿

(広島県)

同会は、昭 15 年に先々代の宮司であった横田末秋氏が奉祝会において「浦安の舞」を奉奏したことに端を発し発足。以後歴代の宮司が守り伝え、氏子から舞姫を募り継承されている。「形だけの「浦安の舞」伝承だけでなく、神社が鎮座する「地域に伝わる伝統文化や心を伝承するなどの目的を掲げ活動している。会発足当初より一貫して「舞」の稽古を通じて氏神様への礼節をも教え、その活動の足跡を記録写真や歴代の舞姫の声などを掲載し、刊行している。

記念品料 10 万円支給

以上 7 件 総額 70 万円支給

4、助成金支給事業

(ア)神道芸能普及費の支給

当会の「神道芸能普及費支給規程」に基づき、神道芸能の普及・昂揚のため活動している個人及び団体に対して、援助金を支給し、その活動を支援している。支援対象は以下の通りである。

- 1 歴史的民俗的に神道及び神社とかかわりある音楽ならびに舞踊(その他これに類するものを含む・以下同じ)
- 2 神道行事に関わる音楽ならびに舞踊
- 3 神社祭祀に関わる音楽ならびに舞踊
- 4 神道文化昂揚普及に関わる音楽ならびに舞踊

支給額：表彰選考委員会(平成 30 年 4 月 18 日開催)において決定。

(平成 30 年 5 月 25 日伝達式にて目録および助成金を支給)

《本年度支給対象者》

(1)池川神楽保存会殿

(高知県)

同保存会は、高知県内土佐の三大神楽のひとつとされる。四百年以上の歴史もち、出雲神楽が四国伊予を経由して池川に伝わったとされ、活動としては、毎年 11 月 23 日の池川神社秋季大祭での神楽奉納を中心としているが、数年前からは地元の小学生が神楽の指導を受けており神社での奉納にも参加している。また、平成 18 年から、伝統芸能を持たない北海道北見市の有志が神楽を習得すべく「北見池川神楽保存会」を立ち上げ指導を行うなど、「神楽」が全国に広まっていった歴史を彷彿させる現代版のような活動である。池川神社のみならず、活動の場を広げている。

助成金 10 万円支給

(2)桑谷里神楽伝承会殿

(新潟県)

新潟県上越市の桑取・谷浜地区(いわゆる桑谷里地区)は、人口 2000 人にも満たない地

区に神職を世襲とする社家が七軒ある。この地区は、現在上越地域で舞いつがれている里神楽の発祥の地と伝えられ、現在も春・秋の例祭には「十二の舞」が神前に奉納される。この貴重な神社を中心とした伝統芸能を後世に継承すべく平成 19 年本会が組織された。年数回の研修のほかに、「月満夜の里神楽公演会」と題し NPO 法人「かみえちご山里ファン倶楽部」と開催している。そのほか子供神楽教室、小中学校文化祭での神楽講習会など多様な活動を展開している。

助成金 10 万円支給

(3) 日高囃子笛の会殿

(岩手県)

岩手県奥州市水沢区の日高神社例祭で奉納される日高火防祭りは、300 年を超える歴史をもち、祭りに使用される囃子は岩手県の指定無形民俗文化財に指定されている。同会は、日高神社を宗家とし、仙台の笛師匠が吹きつづけてきた音曲を、三代目師匠の中目直吉氏や有識者によってこの音曲を譜面化し、奥州日高囃子「屋台ばやし」して出版するなど、音曲と伝統保持・継承に努めている。毎年旧暦の 1 月 22 日の神事「笛魂祭」の吹き初めに参加し、4 月 22 日の日高神社の例祭、28、29 日の火防祭りに参加するなど、年間を通じ活動している。

助成金 10 万円支給

(4) 黒川箱岩太鼓殿

(岐阜県)

岐阜県加茂郡にある同団体は、昭和 57 年、自治宝くじの助成を受けて、地元神社の祭典御奉納演奏や盆踊りのお囃子に奉納すべく長太鼓、締太鼓を購入し、設立された。同年 10 月区民運動会で初発表以来、練習を重ね地域の祭りで演奏。大晦日から元旦にかけては白幡神社、佐久良太神社で年越し奉納演奏を継続し行っている。

また、スペイン サラマンカのアヤナ広場で「日本の日」に因み演奏を行うなど、内外のイベントにも積極的に参加するなど活動を展開している。平成 8 年からは、黒川中学校一年生を対象に、伝統文化体験学習として「箱岩太鼓」の実技指導を開始し、学校の文化祭、夏祭り、敬老会で成果を発表している。

助成金 10 万円支給

(イ) その他の支給事業

文部科学省平成 28 年度「私立大学研究ブランディング事業」に採択された國學院大学の事業「古事記学」の一環として展開される「古事記アートコンテスト」の趣旨に賛同し、本事業に共催として参画。第 1 回の表彰受賞者への賞金として助成金を支給。

助成金支給額 : 225,000 円
以上

5、周年事業

当会は、神道文化の普及昂揚を目指し昭和 22 年 9 月に発足以来 5 年ごとに当初目的の貫徹を期して周年事業を実施してきた。平成 29 年 9 月 13 日には、設立 70 年を迎え 70 周年事業を下記の通り計画し実施した。

(1)『明治維新神道百年史』の復刻、出版

平成 30 年は、明治維新より数えて 150 年であるが、本会では、51 年前に明治維 100 年を記念して『明治維新神道百年史』5 巻を刊行した。本書は、当時の神道関係研究者の粋を集めたもので、本会刊行物を代表する論文集であり、今なお対外の評価を得ている貴重な書籍である。絶版となった今、本会では、設立 70 周年にあたり、奇しくも本年は明治維新 150 年となるのを記念し、今一度この名著を復刻し、その存在を世に知らしめるべく出版した。従来 of 箱入・上製本ではなく、並製・ソフトカバーとし、表紙も装丁も新たに読みやすい体裁のものとして復刻。全 5 巻を納め 1 セットして刊行した。

平成 30 年 5 月 25 日刊行。

なお、良書普及事業の一環として、本書 1 セットを全国主要図書館 389 ヶ所に寄贈。

(2)「明治維新 150 年記念近現代神道史」懸賞論文を募集

上記の『明治維新神道百年史』出版より 50 年が経過した現在、社会状況は大きく様変わりし、当然ながら近代神道史にかかる研究も進展した。当該分野を専門とする研究者も増えることで研究分野、領域は広がりを見せている。これらを踏まえ、本会では設立 70 周年を記念し、上記書籍の復刻出版とともに、今後の神社神道のあり方、神社、神職の進むべき方向を考える上で、我が国の喫緊の課題でもある過疎化社会、少子高齢化社会にあって、神社界あるいは神社神道としての考え方を求められる問題のヒントを探すべく、特に近現代にかかる神道史をテーマに設定し、懸賞論文を募集した。

平成 30 年 5 月 30 日にて締切。

※応募数 12 点。

※審査委員会を開催し、応募論文を審査予定。(審査会平成 30 年 9 月下旬を予定)

※入選論文は機関誌「神道文化」31 号に掲載予定。

(3)記念式典の開催

- ・日 時 平成 30 年 5 月 25 日(木)午後 4 時 30 分から
- ・場 所 東京大神宮
- ・内 容 午後 4 時 30 分 神道文化会関係物故者慰霊祭齋行 約 45 名参列
午後 5 時 10 分 記念式典開催 約 65 名出席

午後 6 時 記念祝賀会開催

約 85 名出席

以上

※なお、式典会場にて、平成 29 年度表彰式、神道芸能普及費伝達式が執り行われた。

(4) DVD の作成

助成金事業のひとつである神道芸能普及費の支給も 30 年目を迎え、昨年 11 月に受給者の団体(対象 60 件)に対し追跡調査を行い、その活動状況を報告書に纏め、提出を依頼し 28 件の回答があった。それら活動内容(写真、DVD 等)を DVD に作成し、関係者及び 70 周年賛助金奉納者に配布。

以上

II、その他の事業(出版等)

本会は、児童向け教化冊子「杜のシリーズ」8 冊を神道青年全国協議会と共同で企画・発行しているが、平成 24 年度より、良書の普及を目指し、神道文化叢書第 1 輯の『神道百言』、同第 6 輯『皇室の御敬神』、同第 7 輯『続神道百言』を復刻、出版し好評を得ている。本年度は、『皇室の御敬神』川出清彦著 1 0 0 0 部を増刷。

以上